
『経理研究』第63号発刊に寄せて

中央大学経理研究所
所長 渡辺 岳夫

『経理研究』は、会計を中心とした関連分野についての学術的な成果を掲載することを目途として、中央大学経理研究所が発行している機関誌である。従来、『経理研究』は毎年発行されていたが、諸般の事情により第59号から隔年に発行されることとなり、今回の『経理研究』第63号は、前回2022年度に刊行された第62号に引き続き、隔年で刊行されるものである。

『経理研究』第63号では、「管理会計の現代的課題」を特集テーマとした。現代は、VUCA (Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity) という言葉に表象されるように、企業を取り巻く外部の経済的・政治的・文化的・技術的な環境は目まぐるしく変化し、その不確実性は著しく高く、将来を予測することは困難である。それでも企業は外部環境の変化を予測し、適切な戦略的対応を行い、そしてその戦略遂行に適うような組織構造やマネジメント・システムに自ら適宜修正あるいは抜本的に変化させていかなければならない。そして、管理会計は、そのほぼ成立当初から企業の最前線のフィールドにおける重要なツールとして、産みの苦しみを克服しながら、それぞれの時代において自らの構造を精緻化し、機能を高度化してきた。今なお苦悩しながらも、その展開を模索し続けている。

そのような模索を長年継続してきた管理会計研究者から、このたび、特集論文として3篇の玉稿をいただくことができた。いずれも企業環境の劇的な変化の中で、あるべき管理会計システムを模索したものである。すなわち、「投資プロジェクト戦略と管理会計情報」、「製造業におけるサブスクリプション・モデル：成功への道筋」、および「アメーバ経営システムの会計情報特性がプレゼンティズムの抑制に効果的な環境の究明」である。前二者は企業の外部環境の変化への適応を、そして後者は企業の内部環境に生じる課題の解決を目指しており、今後の管理会計研究にとって示唆に富む。

以上の特集論文の他に、『経理研究』第63号には、「自由論題」として7篇の玉稿もお寄せいただいた。誠にありがたいことであった。末筆ながら、『経理研究』第63号発刊にあたり、原稿執筆を快くお引き受けいただいた先生方に対して、また刊行に向けてご尽力いただいたすべての関係者の皆様に対して、衷心より御礼を申し上げる次第である。

2024年 盛夏